

第五十一回（平成二十一年度） 上野甚作賞入選作

【秀作】

音たてて精米機より流れ出づ白き新米ほのかに温し

鶴岡市湯田川 松田玲子

いつしらにロシア語覚えはるかな日ダモイと泣きしサハリン憶ふ

鶴岡市砂田町 北村繁子

漁師らの持みは神か磯舟に「神力丸」の墨字大きく

鶴岡市由良二丁目 伊藤吉治

【佳作】

オハヨーと声掛け歩む保父さんに幼ら競ひぶら下がりにゆく

鶴岡市大山二丁目 斎藤ちえ子

手を取りて媪の話にうなづける若き介護士の眼差し優し

鶴岡市大山二丁目 瀬尾隆子

やうやくに初篆刻の印を押すあざやかなる朱のわが名あらはる

鶴岡市寿 後藤喜美夫

【奨励賞】

小学生

冬の海荒れ狂う波磯をのみ海岸に舞うその浪の華

朝陽第一小学校 六年 金丸 翔

お正月することいっぱいあったけど家の手伝いすすんでできた

朝陽第二小学校 六年 橋本麻梨衣

雪の道ふと足もとに小さな芽春が来るのを待ちわびている

朝陽第三小学校 六年 瀬尾愛恵

斎村支えてくれた甚作さんほこりに思う農民達は

斎小学校 六年 五十嵐萌恵

「家族愛」優しいだけじゃだめなんだ八月に逝った祖父の教えだ

小堅小学校 六年 佐藤圭吾

冬の日荒れた海を進む船思い出すのはじいちゃんの姿

小堅小学校 六年 本間穂乃佳

中学生

友達と過ごした日々は楽しくて私の中で輝いている

櫛引中学校 一年 三浦奈々

がむしゃらにゴールに向かい走り抜け仲間と共に手にした勝利

櫛引中学校 二年 金内一平

沖縄の悲しみ知ってしみじみと初めて知った命の重さ

櫛引中学校 二年 鈴木麻衣加

高校生

ゆったりと言葉を紡ぐ祖母の背に午後の日射しがやわらかく降る

鶴岡北高等学校 二年 伊藤香理